

令和7年度 第1回白馬村総合教育会議 議事録

日 時 令和7年12月3日(水)
開会：午後1時28分 閉会：午後3時17分

会 場 白馬村役場2階 庁議室

出 席 者 白馬村長 丸山 俊郎
白馬村教育委員会
教 育 長 横川 秀明
職 務 代 理 中村 豊
委 員 松沢 亨
委 員 武田 弥生
委 員 服部 知子
(説明等のために出席した職員)
総 務 課 長 田中 克俊
(事務局)
教 育 課 長 下川 浩毅
生涯学習スポーツ課長 鈴木 広章
子育て支援課長 中村 由加
教 育 課 早川 敬

議事の概要

1 開会

【教育課長】

開会を宣言した。

2 あいさつ

【村長】

昨今社会を取り巻く環境は大きく変化しており、教育分野においてもそれは同様である。子どもの数もそうであるが、多様な児童生徒が多くいる中から、地域においても様々な課題が生じている。

白馬村としては、「子ども真ん中社会」ということで子どもたちがのびのびと育っていける環境をより整備したい。

本日の意見交換、要望等を通じて、より良い教育環境の整備に取り組んでいきたい。

3 協議事項(議長 丸山村長)

(1) 令和8年度教育関係予算について

教育課長、子育て支援課長、生涯学習スポーツ課長の順番で資料に沿って令和8年度予

算要求における重点施策と懸案事項について、各課所管分を説明した。

【委員】

教育課の給食費負担軽減策は、現在半額補助分計上としている。

以前、給食費の見直しで諮問された際、予想以上に費用がかかり、保護者の負担を増やしたいと聞いた。

また、国も26年で小学校給食費無償化の動きがある。国の動向と関連付けてこの予算をどう理解すれば良いか。

【教育課長】

今年度の給食費は2割軽減をして、中学生は255円としている。

令和6年度決算をみると、現状の保護者負担だけでは全然賄えていない。実際、多額の不足分を村が補っている。地産地消で公費分が小学生10円、中学生20円の加算をしており、それを除いても1000万円ほどの補填をしているが、うまく周知できていない。現在の給食は中学生1食分が426円ほどかかっているため、現在は約4割の補助をしている状況であるが、見えにくい。教育課としては、給食費の本来の適正価額を出し、村の補助額として見える化を考えている。ただし、この半額補助というのは、様々な方から意見があり載せているが、最終的には財政と協議のうえ、理事者の判断になる。

国からは具体的な話がまだ出ていない。どうなるかまだ見えておらず、詳細は決まっていないため、このような形で出した。

【村長】

今より保護者負担が増える形にしたくない。

【委員】

村の負担額は保護者に伝わっていないのか。

【教育課長】

うまく周知できていない。

【総務課長】

普通はいただいた給食費で食材を買うため、給食センターの決算が保護者にも配られるが、村は公会計に変えたため配布しない。

食材費は歳出の村の予算で持ち、それに対して保護者からいただいた給食費を歳入で入れている。食材費が上がれば歳出予算も上がるが、保護者負担を増やさなければ一般財源で補填することになる。村の決算を見ないと保護者も理解できない。

【村長】

今年度、負担軽減を実施したときに、見せ方が我々もわからない。「全額無償」であればわかりやすいが、そこまでの負担は難しい。実質はそれに近いところまで来ている。

【委員】

国の方針がよく見えてない。新聞では、一律に市町村を分け隔てなく同額となっている。それだと弊害が多すぎる。

【村長】

それをもって無償化とは言えなくなる。

【委員】

保護者に説明をするのであれば、1食当たりの金額と、何%が保護者負担とすればわかりやすい。

【委員】

小学校の統合関係は、数年前に大規模なアンケートを行い、動き始めるかと思ったが、アンケート結果が出ただけ。

【教育長】

アンケートを行ったのは3年前になる。

【委員】

そろそろ検討が必要。アンケートが古くなり集めた情報が、生きた話でなくなる。話を前に進めてほしい。

各学校の修繕に使うための基金があると聞いた。毎年の修繕で使わないのはなぜか。

【総務課長】

義務教育施設整備基金という基金で、小中学校の改修等に使うという目的が決まった基金。毎年当初予算で必ず500万円は積み、決算の状況を見て基金に積むことをしており、令和6年度決算では1億積んだ。小中学校の建て替えがあり、その時の一般財源での負担額を試算して、その額までは積む。

今回の修繕にも使うことができるが、その後の大きな目標のため基金を使わずに他の財源で改修をする。

過去には白馬中学校の大規模修繕、白馬南小・北小学校のトイレの改修にも、この基金を使っている。

【委員】

残高はどのくらいか。

【課長】

まだ4億円程度ある。

【委員】

統合問題について再びアンケートをとれば、また賛否両論拮抗して答えなんか出ないと思う。村長は統合についてどのように考えているか。

【村長】

子供の数は減っているのが現状。小学校2校を運営するのは財政の負担が大きい。

教育のあり方として、どのような教育が子供たちにとって良いのかを総合的に判断し、来年度、再来年度頃から本格的な議論を始め、一定の結論若しくは方向性を示す時期にという意識。村長として統合をした方が良い悪いという言い方を今はできないが、先ほど言った観点を総合的に判断する中では、特に前者の二つに関してはかなり厳しい状況。

【委員】

以前と生徒数等が少し違ってきている。

【教育長】

保育士不足が深刻で、大学へ行き募集活動をした。民間にもお願いしている。

村内には資格を持っていながら働かない人はかなりいる。働けない要因として、職場環境や待遇面があると思うので改善が必要。パートタイムが良いのか、あるいは短時間の正職員が良いのか。そのような形がとれば、保育士にも手を挙げる人がいるはず。

正職員とパートでも待遇面など、いろんな面で違ってくる。ワンステップ上げて募集をしたときに、働き方改革の一環として短時間の正職員として、募集するのも手だという思いもある。公立の保育園なので、制度上処遇改善は難しい。しかし、保育士不足を解消するにはそれしかないと感じている。

こども家庭庁が未満児も含めて「誰でも保育」という方針を出した。未満児の保護者は子どもを保育園に預けて働く方向が濃くなってきている。未満児6人に対して保育士1人では見れない。6名の未満児を見るためには最低でも2人必要。飛び回る子どもたちの面倒見るために、村としても待遇改善も行わなければ保育士不足により、受け入れができない子どもが増える。

【村長】

保育士不足は全国的な課題。村内には、民間の保育園があり、そちらは比較的処遇に融通が利きやすいと比べ、公営となると融通が利きづらい。民間委託とするかも一つの判断となる。今はその状況になっていないため、公営であるが、時間面や給与面などで臨機応変に対応していく。それだけ保育士不足が深刻。

【教育長】

待機児童の情報は。

【子育て支援課長】

本日現在、未満児で7名の待機児童が出ている。来年の募集受付をしているが、来年2歳児のクラスが一番多く待機児童を出さないようにしたいと考えているが、保育士不足により厳しい状況。0歳児も10名程の申込がある。0歳児は先生1人に対して3人までしか見られない。その点も厳しい。これから育休を延長できるご家庭があるかなどお聞きして、なるべく受け入れられる体制を組みたい。部屋はあるので、先生がいれば受け入れられる。

サンライズやファミリアも受ける定員がある。そこで受け入れられない子どもは保育園で受け入れるしかないが、保育士が足りない。

【総務課長】

現在一般職員について再任用の短時間勤務は行える制度がない。60歳を過ぎた職員は短時間勤務制度がある。

議案で上げている任期付職員については、今回短時間を設けていないが、新たな条項を加えて短時間にすることは可能である。

【委員】

非現実的な話ではあるが、白馬高校に幼児教育学科みたいなのを設立したらどうか。

子どもが進路を探したときに、白馬には年間を通して働く場所がすごく少ない。役場でも人手不足になっているので、白馬村内で順繰り行くと良い。うまくいけば派遣で外から呼ぶこともなくなる。

【子育て支援課長】

夕方の延長保育には、白馬高校の生徒3名ほどが入っている。会計年度という立場で働き、中には保育士に興味がある子もいる。保育士になって村に帰ってきてくれればと思う。

先生方も夕方延長に入ってもらえると助かると話している。先生の事務仕事も進み、子どもにとっても高校生と一緒に遊んでくれることが楽しい。

【委員】

岳陽高校に通う白馬の人にも声をかけてもいいと思う。

【委員】

保育士の資格取得は大変だが、子育て支援員であればハードルは低い。保育士の負担を減らす意味でも、働ける方にも訴えかけられたらいい。保護者との連絡帳なくしたことは良いことだと思う。当たり前と思ってやっていることも働き方改革として大胆にカットして、見直したら良い。

【子育て支援課長】

今年度コドモンを入れて ICT 化を進めている。来年 4 月から本格的に稼働する。保護者との連絡、子供の登園や降園記録のデータ管理、指導案の作成など、今まで手書きだったものが簡単に作成できるようになることに期待している。

【委員】

第 3 の居場所の利用状況は。

【子育て支援課長】

平日大体 10 人前後。小学生がメインで利用しているが、中学生も数名利用している。

【委員】

第 3 の居場所建設時に、B&G 財団からの補助が数年と聞いたがいつまでか。

【子育て支援課長】

3 年間という決まりで令和 6 年から始まっている。3 年間は B&G から運営費の補助が出る。また、建設時にも補助金が出ている。不足分は月約 60 万円を限度に村が負担する組み立て。B&G の補助終了後は国の補助制度を活用して、引き続き運営を継続する方向が考えられる。

現在は第 3 の居場所として活動しているが、補助終了後には放課後デイサービスの事業も含めて組立てて進める。

【委員】

将来的に多額の財源を持ち出すことはあるか。

【子育て支援課長】

放課後デイサービスの方が黒字経営になりやすい。軌道に乗せていただければいいと思う。

【委員】

図書館の修繕費は利用しやすくするためなのはわかるが、新図書館の建設との兼ね合いで、どのような将来構想を考えているのか。

【生涯学習スポーツ課長】

新図書館については、財政面から建設が可能かどうか探っている状況。

今ある図書館については修繕、改修等も最小限に留めたい。修繕内容は、タイルカーペットが欠損している部分があり、子供が躓いてしまうところを直し、本棚の破損箇所の修理、使っていない古い空調設備の撤去。3点 200 万円を計上しているが、必要最小限な予算取りで行っていく。

【委員】

利用者が使いやすいようにと書いてあるが、実際は破損なり、本当にやらなければいけない事業に限定しているのか。

【生涯学習スポーツ課長】

そのとおり。

【教育長】

図書館 1 階の奥を改修している。改修後は広くなると思うが、子どもたちの利用状況はどうか。

【生涯学習スポーツ課長】

11 月中に書架をどけて場所を広げた。子どもたちの利用は数字にはまだ繋がっていないが、広く周知すればかなり増える手応えを持っている。

【委員】

生涯学習スポーツ課で起債を発行しオリンピック関連施設の工事をしているが、今までも起債を発行して大規模工事を行った。その分は交付税で賄える部分もあると聞いているが、実際どのくらいの費用がまだ起債として残っていて、村として将来的に今どのくらいの借金抱えているかわかるか。

【教育課長】

起債の償還は 10 年から 20 年となっている。最近使ってなければ、もう残ってない。

【村長】

ジャンプ台も特にない。

【教育課長】

最近行ったのはスノーハーブ法面の工事。

【総務課長】

それは残っている。

【村長】

オリンピック関連の建設時の起債は一通り終わっていて、その後に修繕するときに起債をしているものが残っているが、何億とかではない。

【委員】

心配するほどではないということか。

(2) 白馬村第6次総合計画（案）及び第3次白馬村教育大綱（素案）について

教育課長、子育て支援課長、生涯学習スポーツ課長の順番で資料に沿って白馬村第6次総合計画（案）及び第3次白馬村教育大綱（素案）について、各課所管分を説明した。

【委員】

通学路付近にあるタトゥーのお店について多くの保護者から声をいただいているため、代表して言わせてもらう。

海外の方がいろんなお店を作っている中で、「白馬は安全」と言われているが本当にそうなのかという点が懸念される。村としてそういうお店の出店について介入できないのか。

【村長】

いわゆる用途規制で職種を規制する際に、タトゥーが公序良俗に反するようなものになっていない。実態として把握している一方で、その看板規制で介入する方法も考えられなくはないが、職種としては今のところないという認識。

【委員】

中学生や高校生がタトゥーを入れた場合はどうなるのか。

【村長】

特に何か法律に違反するものではない。

【教育長】

校則とかそういうものにもない。

【委員】

校則になれば良いとの理解で良いか。

【村長】

今は昔でいう金髪ダメみたいなものはあるのか。

【教育長】

学校によってはあるが、ほとんどない。日本の文化に馴染めないものであることは確かだが、そこまでの規制は学校の中ではやっていない。

【委員】

SDGs だって本当に矛盾している考え方のため、こういう基本計画は矛盾があってもいいと思う。

【委員】

それは良いとか悪いとかではなくて、そういう児童生徒が出てくることを想定しておかないといけない。学校でもピアスを開けることについて注意している。実際は校則に載っていない。教育現場では駄目ということを自分の温度感でやっている。役場の職員でもタトゥーが入っている方もいるという話を聞いたが、様々な面で受け入れる側も意識改革していかないといけない。その辺を校則として統一してもいいのなら、良いとしていかないと、馴染めない児童生徒も出てくる。

繰り返しお願いしているが、ウイングや B&G の施設予約オンライン化は難しいか。

【生涯学習スポーツ課長】

予約システムの入替は昨年度行った。役場のシステムに相乗りしなかった。システムの入替は数千万かかるため、生涯学習スポーツ課のみでのシステム導入は非常に難しい。

【村長】

当時の議会側からの意見で、情報弱者的な人たちに対して、システムを使える人の方が優先的に取れてしまうといった懸念があった。システムを使える人が優先になるような弊害を解消することも必要である。

【委員】

スポーツはチャンピオンシップスポーツと健康維持スポーツ、二つわかれると思うが、白馬村はどっち目指すのかと聞かれると返答に困ると思う。計画に全て盛りこむから難しくなる。教育大綱も同様。項目が多くなるのもわかるが、多くなりすぎて白馬村の大事な教育が何なのかが見えない。簡略化すると逆の思想になり困ることもある。前の教育大綱がポイントを絞ってありよかった。多様な人々が交流しお互いが認め合い、学び合うこと。

どうすればいいかをみんなで学び、みんなで考えていくというのが基本方針だと思う。

教育大綱も全部盛り込んでいる。例えば基本方針 2 番で、児童生徒の日本語学力向上や文化の違い。これでいいのか。多様化する児童生徒の日本語学力向上、以前は英語教育に力入れていた。それがなくなっていいのか。文化の違い、文化だけじゃない歴史もある。

もう少し練った方がいい。気持ちはわかる。村の教育の心情と方針と合わせてやる。人と自然と結びつけるのもいいが、結びつけなくても良いのではないか。白馬の教育で一番大事なものは何かを言った方がわかりやすい。盛り込みすぎてどこにでもあるような教育大綱のような気がする。

【委員】

教育大綱は課で 1 ページとしてまとめられている。必要な部分がすぐわかるよう分野ごとにした方がよい。

【教育課長】

分野としては学校教育とかスポーツなどで良いか。

【委員】

基本理念に示した内容へ向かっていく方がいいと思う。

【教育課長】

修正する。

【村長】

職務代理の言うとおりの他の地域と比べてもオリンピック以外はそのまま使える部分がある。もう少し白馬らしさ、白馬としての姿勢が出る方がよい。

【総務課長】

審議会では、総花的でどこに行っても同じようなものになるというのが必ず出る。リーディングプロジェクトなど、作り方や見せ方などをフォローするのはよく使うテクニック。

教育はその部分シビアなところもあるため、取扱いが難しい。

【委員】

文科省や県が言う well being や SDGs は各学校でやる。白馬村で一番大事にしたい教育を示せばいいと思う。生涯教育だったら生涯教育、保育園だったら保育園に任せて、教育大綱に載せてないことを行えば「これに沿ってない」と指摘できるぐらいのものがあればいい。前の教育大綱も良いものであったが誰も知らない。学校職員も読めば少しは違ったと思う。

小中学校とも白馬村はすごく変化していて、良い教育をやっている。基本理念に沿って進めていけばいいと思う。英語と日本語の力を大事にする。文化、歴史、伝統も大事にするという教育大綱の方がいい気がする。

(3) 白馬中学校部活動地域展開推進計画（素案）について

教育課長が資料に沿って白馬中学校部活動地域展開推進計画（素案）について、説明した。

【委員】

活動時間はどう決めたのか。

【教育課長】

国が指針を出している。それに基づいて白馬村部活動ガイドラインを令和元年に作った。この方針が現在も継続している。

国が新しいガイドラインをパブリックコメントしている最中であるため、定まったところで白馬村もガイドラインを見直す。

【委員】

このガイドラインは良い。

部活動は水曜日が休みと決められている。生徒のためにも学校とクラブで休日の足並みを揃えてほしい。

【教育課長】

揃えていく。

【委員】

学校の授業は水曜日が早く終わるようになっている。部活動できない日、強制的に休養日を設ける形でないと保護者も休めない。

【教育長】

指導者不足が問題。小さい町村では、指導者がいない現状の中で、平日の放課後を指導できる人があるかどうか。報酬、手当の確保は行政でも面倒見なくてはいけないと感じる。

ある市町村によると、役場の職員が 4 時半から休みをもらい指導をしている。役場で指導する場合には変則的な勤務体系も必要になる感じを受けている。隣の小谷村も同様、指導者不足が悩みと言っている。白馬村スキークラブはよくやってくれている。行政が援助をしているが、いいモデルになって地域クラブができれば良い。

【教育課長】

指導者不足はなかなか難しい状況。

【村長】

公務員の副業という言い方になるのか、テーマには出ているがそこをいじらないといけないのか。

【総務課長】

国の方は既にあるが、白馬村はフレックス制度がまだない。すぐにであれば副業対応となる。

【村長】

作って弊害がないものであれば、すぐに作るべき。

【委員】

小谷では生涯学習などの先生たちが集まって部活動の話し合いをした。ヨガなどの今は部活にないものに興味がある生徒もいるかもしれない。

先生の働き方改革が進んでいるが、子どもたちのことを考えると、家にいても居場所がなくならないように、少し広い視野で考えてほしい。

現在の部活にこだわらず、子どもたちが家に帰って液晶ばかり見ていることは避けたい。

【教育課長】

これについては、5 ページの方針 1 の①番のところに「主体的にスポーツや文化芸術活動を可能な限り」と書いた。小学生にアンケートをとったが、習い事に通っている児童が多い。習い事の受け皿を考えなくてはいけないと感じたため引き続き検討していく。

4 閉会

【教育課長】

閉会を宣言した。

